



Point

水管理を徹底し、初期生育の促進と 病害虫防除を実施しましょう！



秋田地区営農センター 主任 関口 直樹

分けつを促進させる水管理

6月の水管理では目標茎数を早期に確保することが重要です。苗の活着は、通常4～5日で活着し、気温、水温とも高いほど早くなります。また、分けつの発生を促進するため、浅水管理(2～3cm程度)としましょう。水温と地温を高め、日気温較差によって発生が促進されます。きめ細やかな水管理が、安定収量につながります。

葉いもち病防除

育苗期防除および葉いもち予防剤の「オリゼメート剤」を実施した圃場でも、定期的に見回りを行い、今後の圃場確認を行ってください。もし発生が見られた場合、治療剤と予防剤の混和剤(ブラシン剤等)で予防を行うようお願いします。

中干しの実施について

中干しの実施期間は7～10日、圃場に軽く亀裂が1～2cm入り、足跡がつく程度とします(過度な中干しは、根を痛め稲体の衰弱につながります)。ただし、幼穂形成期(7月15日頃)前には終了するように行ってください。中干しの終了後は、すぐに湛水に戻さず間断かん水に努めてください。

6月下旬までに下記の目標茎数と同じ茎数を確保したら中干しに入りましょう		
	70株植え	60株植え
あきたこまち	21本/株	24本/株
めんこいな、ぎんさん	23本/株	26本/株

中干しの効果

- ①無効分けつの抑制
- ②根の健全化
- ③過繁繁、倒伏防止
- ④田面を固くする

斑点米カメムシ対策

畦畔、農道、休耕田での草刈りは6月上旬から稲が出穂(あきたこまちで平年8月3日頃)する10～15日前までに実施するよう心がけましょう。また、斑点米カメムシ類は水田内のイネ科雑草やホタルイ類の穂に誘引され、水田内に侵入する特性があります。本田内外の雑草をしっかり抑えることが、斑点米カメムシ類の被害防止の重要ポイントになります。

初期、一発除草剤で対処しきれなかった雑草については、中・後期除草剤を使用して防除を実施しましょう。

●主な中・後期除草剤

薬剤名	使用量	対応雑草	使用時期	使用方法
レブラス	粒剤 1kg/10a	ノビエ、ホタルイ、オモダカ他	移植後14日～ノビエ4葉期(収穫60日前まで)	湛水散布(水深3～5cm)
クリンチャー	粒剤 1kg/10a	ノビエ	移植後7日～ノビエ4葉期(収穫30日前まで)	湛水散布(水深3～5cm)
	粒剤 1.5kg/10a		移植後25日～ノビエ5葉期(収穫30日前まで)	
	EW 100mℓ/10a		移植後20日～ノビエ6葉期(収穫30日前まで)	湛水散布(水深3～5cm)または落水散布
バサグラン	粒剤 3～4kg/10a	ホタルイ、オモダカ、シズイ、クログワイ他	移植後15～55日(収穫60日前まで)	落水散布またはごく浅く湛水して散布
	液剤 500～700mℓ/10a		移植後15～55日(収穫50日前まで)	
クリンチャーパス	ME液剤 1,000mℓ/10a	ノビエ、ホタルイ、オモダカ他	移植後15日～ノビエ5葉期(収穫50日前まで)	落水散布またはごく浅く湛水して散布
ウィードコア	粒剤 1kg/10a	イボクサ、ノビエ、オモダカ	移植後15日～ノビエ4葉期(収穫60日前まで)	湛水散布(水深3～5cm)

※湛水処理する粒剤は、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。